

11 部分一体型補修 (熱硬化) … 裏込め注入の前処理 (製管工法)

状況

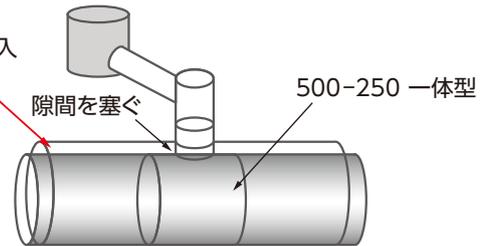
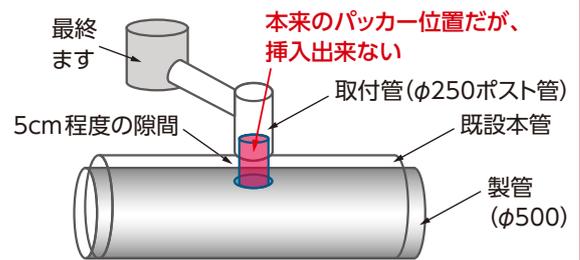
製管施工後の裏込め注入時には、通常、本管の取付管口にパッカーを設置して行なうが、まさからパッカーが挿入出来ない箇所があった。

既設本管と製管の間に5cm程度の隙間がある。本来なら、最終ますよりパッカーを挿入するが、ポスト管のため、不可能であった。

対策施工例

既設管と製管の隙間を塞ぐのは、本来ならパッカーだが、挿入出来ないので、一体型補修を前処理として施工し、裏込め注入を行なった。

この隙間に裏込め材を注入



<施工写真>



取付管口部分



500-250 施工中



500-250 熱硬化一体型施工後